



過去 現在 過去 未来 写真 仲間 手紙

■ 新潟まつりの歴史

新潟まつり発祥の地は下町、横七番町付近です。延宝八年六月二十日廻船問屋で屋号を綱干屋 広嶋 治兵衛が海の守護神白河の住吉神社より神霊をお受け致し現在の日和山近くの海岸で通称三本松の地に社殿を創建しました、この神社を湊元神社と命名したのが始まりと伝えられております。当時の祭りは7月1日から7日まで行われ通称七夕祭りとも呼ばれておりました。250年前の祭り行列の組は下町の横七番町付近を一番組として上町方向へのぼり白山神社前から西堀通りへ折り返して下町方向へ下り古町十三番町付近が最後の二十二番組でした。当時の人達の最大な娯楽と信仰により大変な賑わいでした朝出発した行列は各町内を練り歩き夜には現在の栄小学校裏付近にあった御番所までちょうちん行列が延々と続き最後に葦で作った御座船を海に流し海難に遭われた人達の霊を慰めそして今後の航海の安全を祈願し祭りを終えました。その当時新潟町の祭りの灯かりが遠く佐渡でも見えたと言えられております。当時の人々が余りにも祭りに熱中するあまりとうとうお上より祭り禁止令が出されてしまいその結果当時の竿灯やねぶた等が途絶えてしまい今日まで継承されず今では少ない当時の文献や絵図で当時を知るのみです。

■ 柳都わいやらの会発足の経緯

平成15年11月から一年間新潟まつり実行委員会の委託で提言の場として「新潟まつり見直し検討会」が開催されました、当時検討会では参加したメンバーで熱く盛り上がる新潟まつりとは何か等議論を重ね又新潟まつりの歴史を学ぶ中で昔行われていた伝統行列にも出会った関係で検討会終了後も有志により引き続き歴史や伝統行事を勉強する他まつりに新風を起こしたいという思いからシンボルのわいやら竿灯曳山を製作し会の名称を柳都わいやらの会と命名し平成17年3月16日に発足致しました。現在は発足当時の会員の他に入会された方々と新潟のまつりを発展させる会として多くの支援者の方々のご協力により行事が遂行されております。

わいやら とは
新潟下町の方言で物凄い物を見たときの感嘆詞です



江戸時代の新潟町湊祭りでは
現在の秋田の竿灯青森のねぶたのような
立体的な多くの出し物で大変賑わいました。

きぬがさ小挑灯大竿灯 行田魁庵 絵（江戸末期）
新潟年中行事絵巻 部分抽出（新潟県立万代島美術館所蔵）